

定期上映会 戦傷病者の証言～艦船勤務者編～

艦船での勤務中に受傷した戦傷病者の証言映像を
上映します。

上映場所：しょうけい館 1階 証言映像シアター

上映期間：2022年2月1日（火）～3月13日（日）

上映時間：10：00～17：00

二度の撃沈、受傷、そして発病・・・

毎時 0分
より上映

昭和19年10月、重巡洋艦「愛宕」に乗艦、レイテへ向かう途中、敵潜水艦の雷撃を受け撃沈され九死に一生を得る。同月26日、戦艦「大和」に乗艦、左舷見張台で見張り任務に就いていた時、敵機の爆撃を受け左足を受傷。受傷後、内地送還のため移乗した油槽船「明石丸」が撃沈され、流れ出た重油が海面を覆い火の海となる。死を覚悟した時、母の顔が目に浮かび「生きろ」という声が聞こえ必死で生き延びた。が、帰国後、肺結核を発病し働き盛りの32歳から43歳まで11年間、入退院を繰り返した。治療薬ストレプトマイシン購入のため財産を使い果たした経済的苦労。受傷、発病に加え死の淵を見た二度の撃沈体験を語る。

生きる・・・それは死ぬよりつらかった

毎時 10分
より上映

昭和19年7月、駆逐艦に乗艦中、トラック諸島春島附近で空襲により両腕と左眼を受傷。生きる気力を失い何度も自殺を考えた。横須賀海軍病院を経て海軍軍医学校附属病院へ転院。同病院で多くの重傷患者と出会い生きる希望を得、リハビリ訓練を受けて社会復帰を目指した。21年10月、医師の薦めで手首を割って手指代わりにする手術を受けた。24年結婚。生活のため様々な職に就く。子供と遊べない辛さ、子供がいじめられるのを恐れて授業参観に行けなかった寂しさなどを語る。

身に沁みた平和

毎時 20分
より上映

昭和20年、海軍対潜学校を卒業し、佐世保で敷設艇「燕」乗組員となる。同年宮古島沖にて米軍戦闘機の爆撃を受け、左足の腱を切断。台湾・キールンの海軍病院で足の腱を繋ぐ手術をうけるが、機能は戻らず杖での歩行を余儀なくされる。台湾に上陸時、「こんな平和なところが世の中にあるのか」と感じる。戦後は足が不自由なため農協に勤めた。生きて帰れたことのありがたみを話す。

駆逐艦「雪風」で負傷して

毎時 34分
より上映

昭和17年1月、現役兵として大竹海兵団に入団後、駆逐艦雪風の乗組員となり砲手としてミッドウェー海戦をはじめ様々な海戦に参加。昭和20年7月30日、雪風が京都北部の宮津湾に停泊していた時に米軍艦載機による爆撃と機銃掃射を受け、甲板上で砲手として応戦中に両足を負傷した。すぐに病院に運ばれ手当てを受けたが、貫通銃創と複雑骨折のため帰艦はできず、入院中に終戦を迎えた。足のリハビリに励み昭和21年6月に帰郷。

- ◆上映時間以外でも、情報検索機にてご覧いただけます。
- ◆団体プログラムにより変更となる場合があります。